



# 障がいのある人、ない人との 間で継続的な社会との交流を 増やすには？

2025上田未来会議

第3グループ 「福祉」

# 導入

私たち福祉グループのメンバー内には知的障がいがある方がおり、どう接して良いかわからなかった。

障がいの有無に関わらず、手伝ってほしいことをメンバー内で共有しあい打ち解け合うことができた。

障がいを持つ人と関わり合う中で、特別な枠組みではなく、一人の人として接することができた。

# 問題

- ▶ 障がいがある方が何かに困った時、  
手伝ってほしいと言いにくい社会。
- ▶ 障がいがある方が困っていても、  
どうサポートをすれば良いのかわからない  
社会。
- ▶ 障がいがある方とそうでない人同士が、  
お互いのことをよくわかっていない社会。

# 目標

- ▶ 社会全体が他者に対してやさしくなること。
- ▶ 障がいがある方とそうでない人同士が  
自然な関わりの中でお互いを知ること。

ここが重要!!

# 課題

障がいがある方が  
困っているときに  
サポート方法を  
知っている社会にする。

障がいがある方の  
人柄を知れる機会が  
十分にある社会にする

障がいがある方が  
自分の困っていること  
を発信しやすい  
社会にする。



# 生きにくさがある方とは

- ▶ 外国人、認知症、不登校、ひきこもり、性的マイノリティー、身体・知的・精神・発達障がい者、宗教、アレルギー、ヴィーガン、真面目過ぎて疲れる人、気を使いすぎる人、視力が悪い人、耳が遠い人、など



どんな人にも当てはまる！

# 解決策

- ▶ 当事者と直接会って、  
思いを知る機会を作る
- ▶ 当事者が困っていること、生活の様子を  
SNSなどで発信する
- ▶ 啓発イベントを開催する。

出会って



知り合って



混ざり合う



感想

合 涙  
口 比